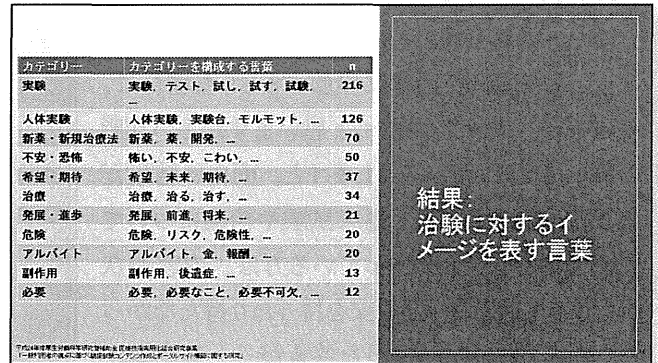


いうイメージ。あと、不安とか恐怖、怖い、不安というイメージ。あと、希望や期待を表す言葉。発展・進歩。リスクを伴うものだという考え方。これらは臨床試験に対するイメージを表す言葉なのですが、このような頻度で出てまいりました。

【スライド - 14】

同じことを、治験に対するイメージに関しても、言葉を表してくださいとお願いしているのですが、こちらでも臨床試験と同じような順番で、言葉の頻度も出てきているのですが、特徴的なこととしては、アルバイトという言葉が比較的、臨床試験に比べると多いかなと思いました。

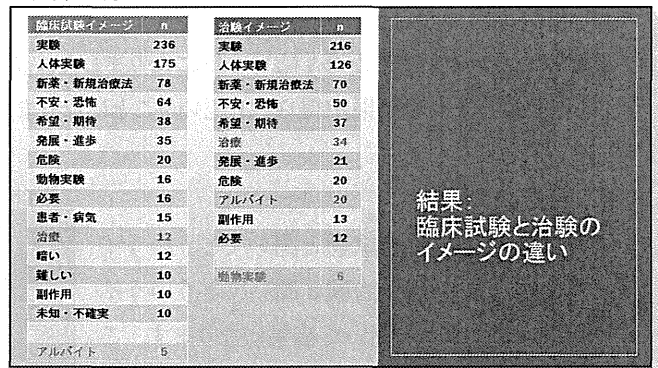
スライド - 14



【スライド - 15】

こちらが、臨床研究に対するイメージと治験に対するイメージを比較して横に並べたもの、先ほどまでにお示したものと同じものを並べたものなのですが、臨床試験のイメージと治験のイメージで特徴的に違うものが、治験だと、アルバイト、あと高額アルバイトですとか報酬という言葉が、比較的多く出てきていました。また、治験ですと、治療法である、治療であるというイメージが、臨床試験に比べて少し比率が高いかなと考えられます。

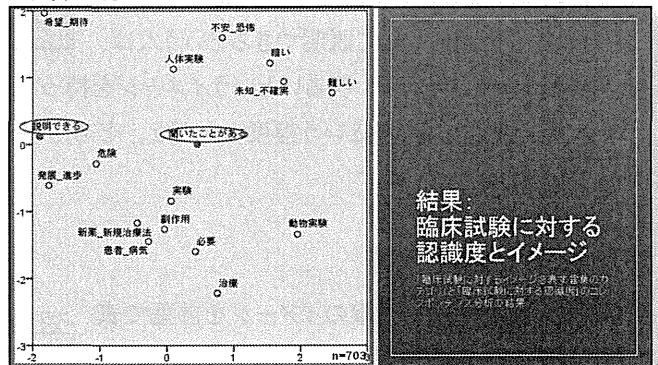
スライド - 15



【スライド - 16】

こちらでも少し簡易的な結果になってしまうのですが、先ほど出てきたイメージを表す言葉と、あと説明できると自分で思っている人、聞いたことがあると答えた方を、コレスポンデンス分析という手法を用いて、関連性が強い言葉のプロットが近くに来るといような分析を行っております。こちらは、臨床試験に対する認識度と、あとイメージをプロットしたのですが、説明できるという方は、聞いたことがあるという方よりも、希望・期待、発展・進歩みたいなどところと近い位置にあるかなと。あと右上のあたりは、確かに人体実験は不安・恐怖だし、暗いものだし、何かよくわからないものである、難しいものであると。あと、左下のあたりを見てみますと、患者や病気のための薬の開発であり、必要なものだという言葉がプロットが近いという結果になりました。

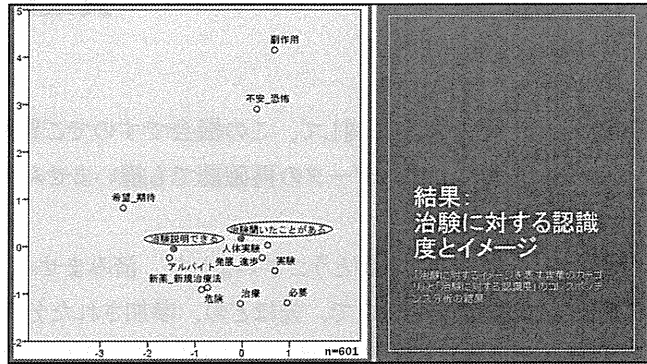
スライド - 16



【スライド - 17】

同じ分析を、治験に対する認識とイメージと
いうことでやってみたのですが、まず先ほどと
ちょっと軸が違うので、相対的に近いもののほ
うがイメージが近いと思っていただければいい
のですけれども、ここでちょっと予想と違ったな
というのが、治験を説明できるところのプロ
ットの近くにアルバイトという言葉が出てきた
ということがあります。これは、治験を説明でき
ると思っている人が全員、アルバイトと思ってい
るというわけではなくて、聞いたことがあるとい
う程度の人よりは、説明できるとしている人中
に、こういう頻度が高いということがわかりまし
た。実際にこのプロットをしてみて初めてわか
ったのですが、ちょっとこれは注意しなければい
けない。説明できるとしている人が、実際本
当に何を説明できるのか、今回聞いておりませ
んので、このあたりというのは非常に重要な知
見かなと思います。

スライド - 17



スライド - 18

まとめ

- 臨床試験・治験に関する認識度が高いほど、
- 現在、大きな病気を経験している人が多い。
- 臨床試験・治験に対するイメージが「明るい」人が多い。
- 臨床試験・治験に参加してみたいと考えている人が多い。
- 臨床試験・治験への参加に対しては「その臨床試験・治験の内容によって」抱く不安が異なると感じている人が多く、「不安を持つ」と感じている人が少ない。
- 臨床試験・治験に関する認識には偏りがある可能性。

【スライド - 18,19】

今までのまとめなのですが、認識度が高いほど病気の経験が多かったり、イメージが明かかったり、参加してみたいと考えている人が多いことがわかりました。あと面白いと思うのが、内容によって抱く不安が異なると感じている人が認識度が高い人に多いということ。これは本当に認識が高いのだろうと思ったのですが、ただ、認識に偏りがある可能性は、先ほどお示した最後の分析で出てきたとおりであります。

スライド - 19

当該調査の限界 & 今後の課題

- インターネット利用者に限定した調査
 - 調査対象者が若年層に偏っている
 - インターネット調査協力者として登録したものに限定(実際の患者層との隔たりが予想される)
- 対象者の自記式回答形式
 - 「〇〇について知っている」は、何をどの程度知っているのか/本当に知っているのか?
- 多変量解析の実施
- 質的分析に関する妥当性の確保

本研究の限界と今後の課題です。本調査は、インターネット利用者に限定した調査ですので、最終的にポータルサイトということを考えますと、ネット利用者というのも非常に視野に入れた分析ではありますが、こちらはある程度、実際の患者層とはまたちょっと偏りがあるということは考えなければいけないと思います。あと、対象者が、やはり自分で思っているというだけですので、本当にどう考えているのか、どういうことを知っているのかということについてはきちんと考える必要があります。今は2つの要因のみ、また多変量解析としてはコレスポネンズ分析しかやっておきませんので、今後いろいろな要因を踏まえた上で、実際に一般利用者が臨床試験・治験についてどのように考えているのかということについて検討していく必要があると思います。発表のほうは以上です。ありがとうございました。

質疑応答

有田： 今の発表に関して、この機会ですのでご質問が幾つかありましたらば。お手元にデータがありませんので、データの再確認でも構いませんが、どなたかいらっしゃいますか。

会場A： 発表をありがとうございました。済みません。ちょっと興味で聞いてみたいのですけれども、意識調査という中で、先ほどの、参加された分布の中で、医療従事者の数も入ってはいたのですけれども、私、仕事柄、サイト売りとか、臨床試験の監査で病院に行く機会がありまして、先生とお話をするときに、リクルートの段階の難しさというお話を伺うと、やはり、人体実験だと言いつつ先生もいらっしゃるんです。そういう中で、やっぱりリクルート、参加してもらう上では、患者さんとの関係ができていないとリクルートもできないというような現実的なお話を伺うことがあって、今の調査とはちょっと関わらない部分もあるのですけれども、実際に臨床試験というところの現場に持ち込むことを考えたときに、実際携わる先生方の意識と、患者さんの層における意識というのもの、何かすごく興味があるなどは思っています。これは、現実的な中での進行ということでの面ですけれども、今後、大きくやっぱり認知してもらう必要があるのだろうなということ。

あともう一つは、先ほどアルバイトという点がありましたけれども、私もジェネリックのメーカーにいて、同等性試験をやった経験もあって、学生さんのバイトという1つの側面は実はありまして、当時。映画にもなりましたが、治験参加はお金になると。短期間でいい稼ぎになるみたいなの、やや、そういうすり込みもあってかなという気もしました。そういったメディア誘導的な部分が否めない部分があるのかなというのがありますし、そういった面で、まだまだ切っていく切り口があるのかなという気がしました。感想までですが。

田辺： ありがとうございました。ご指摘いただいたとおり、医療従事者がどのように考えていて、それを患者さんや被験者の方どのように話をするかということも調査が実際に必要だと思いますし、もしギャップがあるのだしたら、ギャップをどのように解消していくのか。我々のほうは一般利用者に対してどういう情報提供をするのかということで、まずは正しい情報というものを提供する必要があるのかなと考えております。

あと、メディアの言う、アルバイトですが、実際、インターネットで「治験」と検索すると、上位にやはりそういうものがたくさん出てくるというところがありますので、それを我々がコントロールするわけにはいかないのですが、実際、その側面だけが出てしまうと、やはり非常に怖いものもあるかなと思いますので。実際、そういう目的でももちろん、「目的で」と言うところとちょっとあまり言葉がよくないですけれども、やはり参加される上で、負担額という形でお支払いしているわけではあると思いますので、そこも、きちんとした認識を持っていただいてご参加いただくというのは大事になってくるかなと思いますが、こちらも今後の課題になっていると思います。ありがとうございました。

有田： ありがとうございました。もう一点。ではお1人だけ。

会場B： 東京大学の〇〇とありますが、2点あるのですが。このパネルというか、回答した人のたしか5%が医療従事者でしたよね、50人ぐらいで。治験に参加したことがありますかとか、あるいは臨床試験に参加したことがありますかという設問だと思うのですが、最近、臨床試験参加者と、まあ

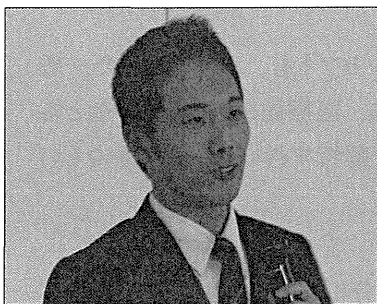
会場B： 臨床試験は、医療従事者側と患者さん側との共同作業だというコンセプトも、それほどまだ一般的ではないと思いますが。そうすると、参加しましたかというときに、医療従事者として参加と答えてしまうことはないのでしょうか。あるいは、それは今のデータを解析すればわかるのかなという気がしたのですが。

田辺： 申しわけございません。そちら、きちんと見ていないのですが、分析すればすぐに結果は出てくると思います。今回のものに関しては、実際に自分で参加したという形で答えてほしいなという。ちょっと、文言、細かい聞き方をしております。

会場B： 2点目が、コレスポンド分析でアルバイトと治験が近いところにあるというのは非常に私は面白いと思ったのですが、「治験に参加した」の中には、第I相とか、ジェネリックの同等性試験に参加した人もいますよね。それとアルバイトとの、たかだか何十名ですから、対応させてみると面白いかなと思ったのですが。

田辺： ありがとうございます。私もそちら、面白いなと思って、そこだけちょっと内容を見てみたのですが、実際、アルバイトと答えた人たちが、実際自分で参加したというわけではなくて、知人が参加したですとか、そういう方のほうが比率が少し高いというだけですので、全員が、アルバイトと答えた人がどうというわけではないのですけれども、自分自身が参加しているというよりは、どうも知人が参加しているとか、そういうところから聞いた情報かなとは考えております。そちらも今後また分析を進めていきたいと思っております。ありがとうございます。

有田： ありがとうございます。まだまだご質問があるかと思えますけれども、後半のディスカッションのところでまたお願いしたいと思います。ありがとうございました。



『一般利用者の臨床研究（治験）サイトへのたどり着き方および既存ポータルサイトに関する評価』

北里大学 薬学部
薬学教育研究センター 情報薬学部門 助教

山崎 広之

【スライド - 01,02,03】

それでは、北里大学情報薬学部門、山崎広之が発表させていただきます。本日はこのような流れで発表したいと思います。まず初めに我々の目標をお話したいと思います。我々の目標は、国民の皆さんにとって使いやすい治験ポータルサイトを作りたいということです。

スライド - 01

平成24年度厚生労働科学研究費補助金
医療技術実用化総合研究事業
「一般利用者の視点に基づく臨床試験コン
テンツ作成とポータルサイト構築に関する
研究」

**一般利用者の臨床研究（治験）サイト
へのたどり着き方および
既存のポータルサイトに関する評価**

北里大学薬学部情報薬学部門
山崎広之・西端芳彦

平成24年度 第1回 公開フォーラム 2013・2・10

スライド - 02

- はじめに
- 調査内容
- まとめ

平成24年度厚生労働科学研究費補助金医療技術実用化総合研究事業「一般利用者の視点に基づく臨床試験コンテンツ作成とポータルサイト構築に関する研究」 2

スライド - 03

はじめに

<目標>

国民の皆さんにとって使いやすい
治験ポータルサイトを作りたい。

平成24年度厚生労働科学研究費補助金医療技術実用化総合研究事業「一般利用者の視点に基づく臨床試験コンテンツ作成とポータルサイト構築に関する研究」 4

【スライド - 04】

この治験ポータルサイトというのは、いろいろな治験に関する情報がたくさん集まっていて、治験のことが知りたいならまずここに行ってみようと、国民の皆さんが思えるようなサイトを我々は作りたいと思っています。

スライド - 04

治験ポータルサイト

私たちが作りたい治験ポータルサイトはどういうものか？
それは色々な治験に関する情報がたくさん集まっていて
治験のことが知りたいなら『まずここに行ってみよう！』
と国民の皆さんが思えるようなサイトです。

平成24年度厚生労働科学研究費補助金医療技術実用化総合研究事業「一般利用者の視点に基づく臨床試験コンテンツ作成とポータルサイト構築に関する研究」 5

【スライド - 05】

まず我々は、治験ポータル作成に向けて、臨床研究情報検索ポータルサイトのトップサイトがあるのですが、こちらのサイトについて考えました。このサイトは専門家の方に向けて作られており、治験のことを網羅しているサイトです。現在、治験情報すべてをまとめたサイトはこのサイトしかありません。もちろん、国民の皆さんもこのサイトを使うことはできるのですが、ただ、我々が気になっている点が幾つかあります。

【スライド - 06】

例えばこのサイトに行くには、国立保健医療科学院、こちらの部分をクリックして、こちらのページに飛ぶというふうに、慣れていない方には使いにくいのではないかと考えられる部分が幾つかあります。

【スライド - 07】

そこで我々は、国民の方々がこのサイトを使いやすいと感じるのかどうか調査することにしました。もし使いにくいと感じる部分があるのなら、その部分を考慮した治験ポータルサイトを作れば、国民の皆さんにとって使いやすい治験ポータルサイトができるのではないかと考えました。

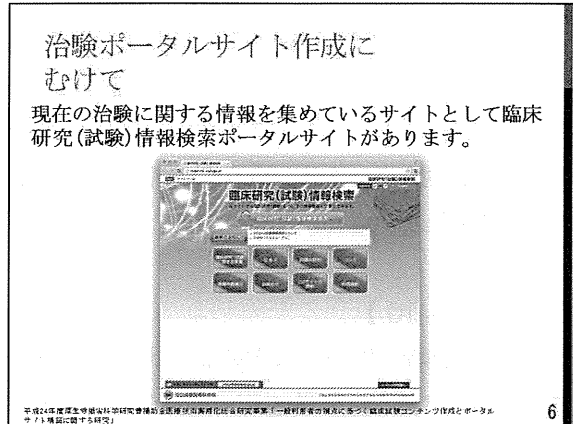
【スライド - 08】

続いて、どのように調査したか、そしてその結果をお話したいと思います。我々が、治験ポータルサイトに必要なことは何かと話し合った結果、2つのことが浮かび上がりました。1つ目は、そのサイトにたどり着けるか。今まで知らなかったけれど、知り合いの方に教えてもらったらすごく便利だと感じた。そんなサイトがありませんか。使いやすいサイトがあっても、皆さんが知らなかったり、わかりにくいところにあつては、誰も使うことができません。

2つ目は、そのサイトで満足した結果が得られるか。便利そうなサイトに行ったけど、調べ方がわからないから、もう使うのをやめようとなったことはありませんか。そのサイトにたどり着けたとしても、自分の知りたいことがなかったり、調べ方がわからないという場合は、そのサイトを使うことをやめてしまうようなことがあります。

この2つの、治験ポータルサイトに必要なことに対して、次のような調査を行っていきました。

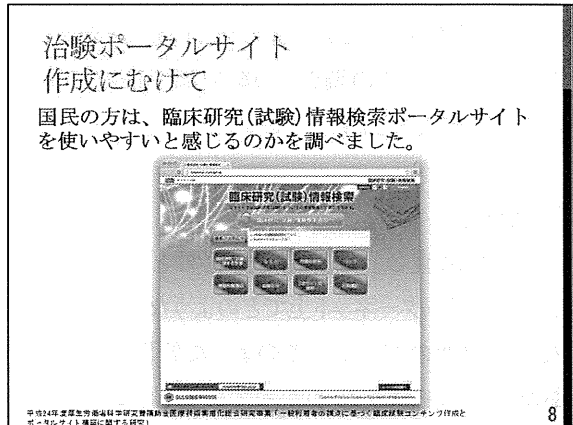
スライド - 05



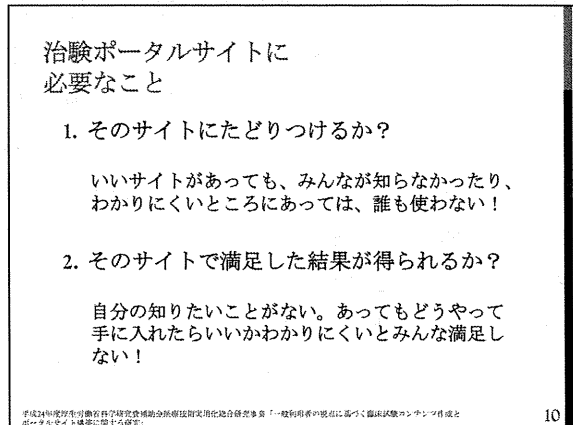
スライド - 06



スライド - 07



スライド - 08



【スライド - 09】

先ほどの2つのことを調べるに当たり、大きく分けて3つの調査を行いました。その中の2番目と3番目の調査は、先ほどの、現在存在する臨床研究情報検索サイトを利用しています。今から、それぞれの調査について説明していききたいと思います。

【スライド - 10】

まず、治験情報サイトにどのような検索キーワードでたどり着いているかを調べました。どのような検索キーワードでたどり着いているかを調べるに当たり、先ほどの臨床研究情報検索サイトは、我々とは別の組織が運営しているものであり、利用に関する情報を手に入れるのは簡単にはできません。そこで今回はこちらの、我々の組織が運営している2つのサイトで、どのようなキーワードでたどり着いているかを調査しました。

【スライド - 11】

こちらが結果です。上にあるほど、治験情報サイトにたどり着くときによく入力された検索キーワードです。例えばこちらの、北里大学臨床薬理研究所という治験情報サイトには、そのサイトの名前を検索してたどり着いたという方がたくさんいるなどということが、この表からわかります。この調査1の結果は、続けてお話しする調査2の結果とともにまとめてお話ししたいと思います。

【スライド - 12】

続いて調査2。治験情報を必要としている国民の皆さんは、インターネット上でどのような行動をとるか。8人の協力者の方々に、このような質問をしました。あなたはある病気にかかっているとします。その病気のことをパソコンで調べて、新しい治療法を探してみてくださいと、このような質問をしました。我々は、このような方こそ治験情報サイトの情報が必要な方だと考えています。また、このシナリオの病気は、実際に現在、その病気に対して治験が行われている病気を、8人の協力者の方々に、このような病気を探してくださいとお願いしてみました。このような病気の治療法を探してほしいとお願いしました。したがって、8人の方々が新しい治療法を探しているうちに、治験情報サイトへたどり着くだろうと考えられます。この質問をして、新しい治療法を30分で探せるか調べてみました。

スライド - 09

どのように調査をしたか

	なにに関する調査したか	どのサイトを利用したか
調査1	1. サイトにたどりつけるか	<ul style="list-style-type: none"> 北里大学臨床薬理研究所 北里研究所病院臨床試験部治験管理室
調査2	1. サイトにたどりつけるか	
調査3	2. サイトで満足した結果が得られるか	

平成24年度厚生労働省科学技術文部省共同推進事業「一般利用者の視点に基づく臨床試験コンテンツ作成とユーザビリティ検証に関する研究」 11

スライド - 10

調査1. 治験情報サイトにどのような検索キーワードでたどりついているか。

北里大学の運営する治験情報が含まれる2つのサイトについて、過去六ヶ月分の情報を入手してどのような検索キーワードでたどりついたのかを調べました。

調べた2つのサイト

- 北里大学臨床薬理研究所
- 北里研究所病院臨床試験部治験管理室

*この情報には個人情報はありません。

平成24年度厚生労働省科学技術文部省共同推進事業「一般利用者の視点に基づく臨床試験コンテンツ作成とユーザビリティ検証に関する研究」 12

スライド - 11

北里大学臨床薬理研究所		北里研究所病院臨床試験部治験管理室	
1)	3	1)	1
2)	3	2)	6
3)	2	3)	4
4)	2	4)	4
5)	2	5)	3
6)	1	6)	2
		7)	2
		8)	2
		9)	2
		10)	2
		11)	2
		12)	2
		13)	1
		14)	1
		15)	1
		16)	1
		17)	1
		18)	1
		19)	1

2つのサイトへどのような検索キーワードでたどりついたかを抽出できました。

*今回の研究に関係ないキーワードにはモザイクをかけています。

平成24年度厚生労働省科学技術文部省共同推進事業「一般利用者の視点に基づく臨床試験コンテンツ作成とユーザビリティ検証に関する研究」

スライド - 12

調査2. 治験情報を必要としている国民の皆さんはインターネット上でどのような行動をとるか

8人の協力者の方々に以下のような質問をしました。

「あなたはある病気にかかっているとします。その病気のことをパソコンで調べて新しい治療法を探してみてください。」

平成24年度厚生労働省科学技術文部省共同推進事業「一般利用者の視点に基づく臨床試験コンテンツ作成とユーザビリティ検証に関する研究」 14

【スライド - 13】

そうしたところ、8人の協力者の方々は検索サイトから、「新しい薬」や病気名、お題とした病気の名前といった検索キーワードで検索を行っていました。そして、こちらの臨床検索情報検索ポータルサイトにたどり着いたのは、8名中1人だけでした。その方も、制限時間30分の残りわずかかのようにくたどり着けたという状況でした。

【スライド - 14】

また、調査1と調査2では、使われた検索キーワードには差があるということがわかりました。調査1では、こちらのヘルシンキ宣言など、治験に詳しくないとちょっとわからないような専門用語や、治験情報サイトの名前をそのまま入れないと、こちらのサイトにはたどり着けません。しかし、一般の方々が新しい治療法を探そうとするときに検索する、検索キーワードとして使う言葉は、「新しい治療法」や病気の名前といった検索キーワードでした。

【スライド - 15】


このことから、調査1で使われた検索キーワードと、調査2で使われていた検索キーワードには差があったと言えます。そこで現状では、治験情報を手に入れるべき人が治験情報にたどり着くことは難しいのではないかとと言えます。調査1で使われた検索キーワードを使わないと治験情報サイトにはたどり着けないのですが、新しい治療法を探そうとしている方は、「新しい治療法」や病気の名前を検索キーワードに使うため、現状ではたどり着くことが難しいのではないかと考えられます。

【スライド - 16】

では、どのようにすれば解決するのかということも考えました。その一つとして、サーチエンジン・最適化、SEOと略されるのですが、このSEOを行うということが1つ考えられます。SEOは、検索エンジン最適化と訳され、グーグルなどの検索サイトで検索されたときに上位に来る工夫をすることです。


スライド - 13

調査2. 治験情報を必要としている国民の皆さんはインターネット上でどのような行動をとるか



8人の協力者の方々は、googleやyahooといった検索サイトから「新しい薬」、「病気名」といった検索キーワードで検索を行っていました。

そして臨床研究(試験)情報検索ポータルサイトにたどりつけたのは8名中1人だけでした。



平成24年度厚生労働省科学研究費補助金基盤研究(特別)化社会科学研究費「一般国民の視点に基づく臨床試験オンライン作成とポータルサイトの構築に関する研究」

スライド - 14

北里大学臨床薬理研究所		北里研究所病院臨床試験部治験管理室	
1)	3	1)	11
2)	3	2)	6
3)	2	3)	4
4)	2	4)	4
5)	2	5)	3
6)	1	6)	2
		7)	2

調査1と調査2では使われた検索キーワードには差があるということがわかりました。

調査1 「専門用語」「治験情報サイトの名前」
調査2 「新しい治療法」「病気の名前」

平成24年度厚生労働省科学研究費補助金基盤研究(特別)化社会科学研究費「一般国民の視点に基づく臨床試験オンライン作成とポータルサイトの構築に関する研究」

スライド - 15

調査1と調査2からわかったこと

調査1でわかった治験サイトにたどりつけた人が使った検索キーワードと、
調査2でわかった治験情報を必要としている人が使った検索キーワードには差があった。

現状では、治験情報を手に入れるべき人が治験情報サイトにたどりつくことは難しいのではないかと。

平成24年度厚生労働省科学研究費補助金基盤研究(特別)化社会科学研究費「一般国民の視点に基づく臨床試験オンライン作成とポータルサイトの構築に関する研究」

スライド - 16

どうすれば解決するか？

Search Engine Optimization (SEO) を行う。

SEOは検索エンジン最適化と訳され、Googleなどの検索サイトで検索されたときに上位にくる工夫をすることです。
公共の機関はSEOを行っていないことが多い。

平成24年度厚生労働省科学研究費補助金基盤研究(特別)化社会科学研究費「一般国民の視点に基づく臨床試験オンライン作成とポータルサイトの構築に関する研究」

【スライド - 17】

例えば現在、先ほど田辺のほうからもお話があったのですが、臨床研究情報検索サイトはGoogleで「治験」と検索しても、先ほどの治験のアルバイトなどに関連するサイトはたくさん上のほうに出てくるのですが、このサイトは検索上位には含まれません。皆さんもこういうことはあると思うのですが、検索キーワードで自分が知りたいことを検索したときに、上位二、三個にあるサイトは重要そうなサイトだなと目を通しますが、それより下のほうのサイトは、もういいかなと目を通さないようなことがあると思います。このことを考えると、現状では、「治験」と検索してこのサイトにたどり着くことはできない、難しいと言えます。

【スライド - 18】

そこで、SEOを行って、例えば「新しい治療法」や「治験」といった、国民の皆さんが検索しそうな言葉で検索したときに、検索結果の上位に先ほどのサイトがあれば、国民の皆さんが、あ、このサイトすごい、私が知りたかった情報が詰まっている、便利そうなサイトだといってクリックしてもらい、そのサイトにたどり着けるのではないかと考えられます。

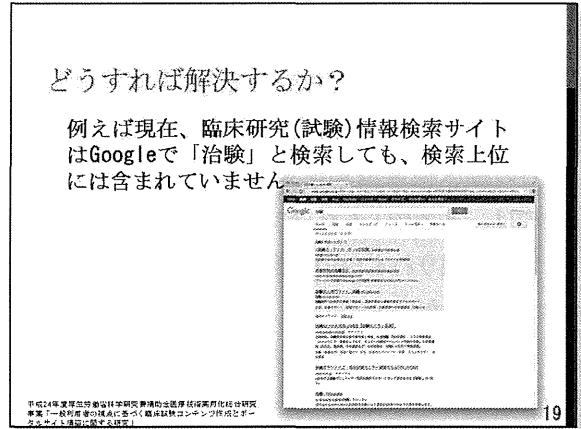
【スライド - 19】

続いて調査3です。現在、治療情報を集めているサイトが国民の皆さんにはどの程度使えるのかを調査しました。8人の協力者の方々に、先ほどのポータルサイトで、病気に関する治療情報を探してもらいました。また、このとき、最初のほうでお話した、このサイトへの行きやすさも調査するために、国立保健医療科学院のサイトからスタートして、治験情報を探してもらうようにお願いしました。

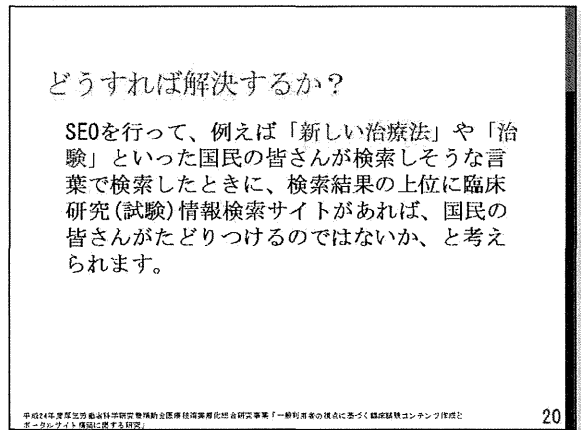
【スライド - 20】

そうしたところ、8人中、こちらのここをクリックして、まずこちらに行けるというのが、なかなかわからないという方が2人いました。例えばこの上の部分にも、こちらのサイト内の検索をするための検索のスペースがあるために、ここに、治験に関する情報、調べたい情報を入れたらたどり着けるのかなと誤解していた方もいるようです。

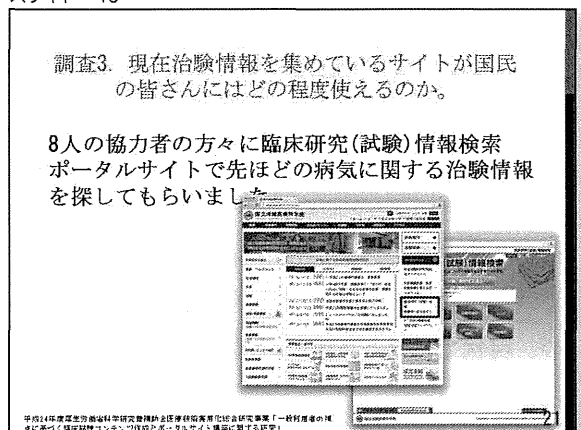
スライド - 17



スライド - 18



スライド - 19



スライド - 20



【スライド - 21】

また実際に、先ほどの治験情報検索サイトを使ってどのように感じたかをまとめた1例がこちらです。例えば、やはり専門用語が多い。一般の人になじみのある言葉にしてほしいというお話もありました。しかし、そのようなお話もありますが、病名がわかっている人や、治験に詳しい、病気に詳しい人には、使いやすいのではないかと感じましたというような声もいただくことができました。

また、こちらがすごい、この調査をして印象を受けたことなのですが、「サイトが使いやすくなることも大事ですが、治験の仕組みを知ること大事だと思った」。実際に協力者の方に、このような調査をしていただくに当たって治験のことに触れることで、治験のことをもっと詳しく知って、国民の皆さんもどンドン治験に関する知識を増やしていくのが必要なのではないかなと、国民の方から言葉をいただきました。すごい印象に残っています。

また、これは治験情報検索サイトに限ることではないのかもしれませんが、文字がちょっと小さい。ちょっと目が悪いなという方には文字が見にくいのではないかな。もっと大きい文字とかに表示を変更できないかなというお話もいただきました。

【スライド - 22】

調査3からわかったことで特に印象に残ったのは、治験に関する知識をもっと皆さんにお伝えすることもやはり大事だなということがわかりました。

【スライド - 23】

最後にまとめです。現状の状況では、治験情報をまとめたサイトにたどり着くことは難しいのではないかな。また、調査3から、国民の皆さんが使ったときに感じることを集めることができました。

【スライド - 24】

では、今後していきたいことはどういうことかということ、まず、今回のフォーラムのように、国民の皆さんに治験情報サイトのことを知ってもらいます。そのようなことをすることで、国民の皆さんは、今まで「新しい治療法」や病気の名前で検索を行っていたのを、「治験」や「治験情報サイト」という言葉で検索を行うようになっていけるのではないかと考えられます。そしてそれと同時に治験情報サイトのほうも、先ほどお話ししたSEOを行っていくことによって、今までは、治験のことを知っていないとわからないような専門用語や治験情報サイトの名前で検索しないとこのサイトにたどり着けなかったのが、「治験」や「治験情報サイト」。もちろん、ゆ

スライド - 21

治験情報検索サイトを使ってどのように感じたか

- 専門用語が多い。一般の人になじみのある言葉にしてほしい。
- 治験を行っている担当の連絡先がないと直接聞きたいことが聞けない。
- 最初の入り口で「一般」「医療関係者」などというようにして「一般」の場合は簡単な検索で使えるようにしてほしい。
- サイトが使いやすくなることも大事ですが、治験の仕組みを知ること大事だと思った。
- 病名がわかっている人には使いやすいと思う。
- 文字の大きさが小さいと見えにくい人もいますのでは？

平成24年度厚生労働省臨床研究推進課と医療従事者団体の共同調査「一般国民の視点に基づく臨床試験コンセンサス作成とポータルサイト構築に関する研究」

23

スライド - 22

調査3からわかったこと

国民の皆さんが現在の臨床研究(試験)情報検索サイトを利用するときに感じることを集めることができました。

また、「治験」に関する知識をもっと皆さんにお伝えすることも大事であることもわかった。

平成24年度厚生労働省臨床研究推進課と医療従事者団体の共同調査「一般国民の視点に基づく臨床試験コンセンサス作成とポータルサイト構築に関する研究」

24

スライド - 23

まとめ

1. 現在の状況では、国民の皆さんが治験に関する情報を知ろうとしても治験情報をまとめたサイトにたどりつくことは難しいのではないかな。
2. 現在の治験情報ポータルサイトを国民の皆さんが使ったときに感じることを集めることができました。

平成24年度厚生労働省臨床研究推進課と医療従事者団体の共同調査「一般国民の視点に基づく臨床試験コンセンサス作成とポータルサイト構築に関する研究」

26

くゆくは「新しい治療法」といった言葉や、病気の名前で検索しただけで、こちらのサイトに行けることが一番望まれるのですが、まずは「治験」や「治験情報サイト」という言葉で検索しただけで、ここにたどり着けるような状況にしていきたい。そのように、簡単に見つけることができるような工夫をしていきたいと思います。このように、国民の皆さんと治験情報サイト両側から、使いやすさの向上を目指していきたいと思います。以上で発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

スライド - 24

今後していきたいこと
簡単に見つけることができるように工夫し、
使いやすさの向上を目指していきたいです。

<国民の皆さん>
「新しい治療法」
「病気の名前」

<治験情報サイト>
「専門用語」
「治験情報サイトの名前」

「治験」
「治験情報サイト」

平成24年度厚生労働省医科学研究費補助金医療情報活用推進事業「一般利用者への臨床試験情報提供の促進に関する研究」
ポータルサイト「臨床」に関する研究

27



『臨床試験・治験の試験情報データベースに関するアンケート』

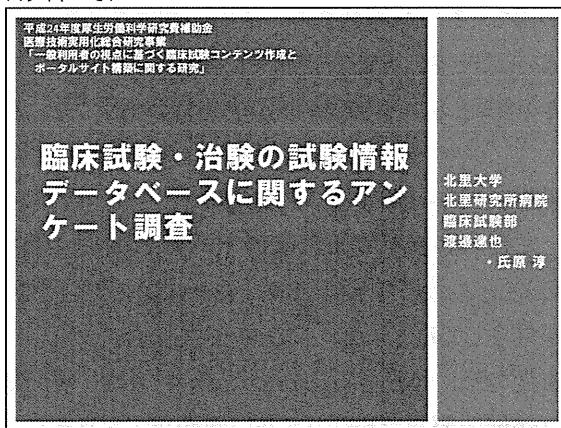
北里大学
北里研究所病院 臨床試験部 主任

渡邊 達也

【スライド - 01】

北里研究所病院の渡邊です。よろしくお願いいたします。私のほうでは、今までが一般国民の方へのアンケートと、一般国民に対するというポータルサイトの紹介が中心だったのですが、その対極とまでは言いませんが、我々のような、臨床試験・治験を取り扱う専門家の方の現状を把握しようと思ひまして、1つアンケートをさせていただきました。

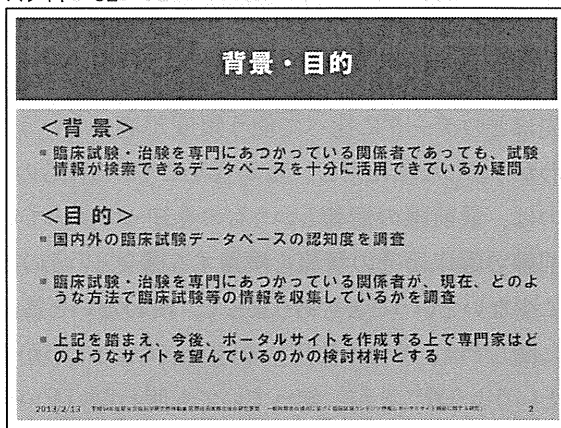
スライド - 01



【スライド - 02】

アンケートですが、治験・臨床研究を専門に扱っている関係者であっても、試験情報等が正しく検索できているのかということから、きちんとデータベースを使って十分に活用できているかというのが疑問であったという背景がございます。そのために、国内外の臨床試験データベースの認知度を調査し、それによって、今後のポータルサイトを作成する上で、専門家などが実際にどのようなサイトを望んでいるのかというのを検討材料にするために、今回のアンケートを企画いたしました。

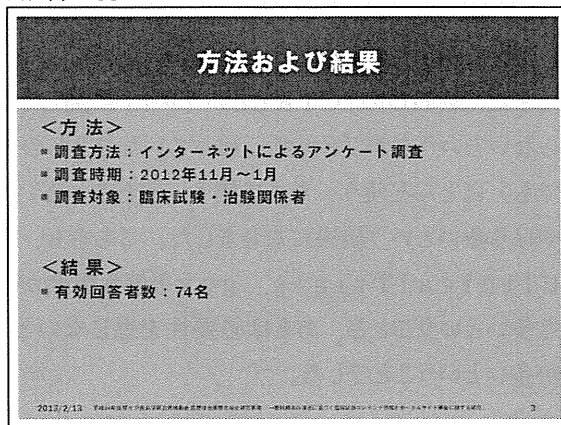
スライド - 02



【スライド - 03】

方法ですが、インターネットによるアンケートで、調査対象は、臨床試験や治験の関係者に限定させていただいております。回答は、74名の方から回答をいただきました。

スライド - 03



【スライド - 04】

回答者としては、所属として医療機関とSMOに所属する方が非常に多く、製薬企業の方なども何名かいらっしゃいました。

【スライド - 05】

まず、先ほどから何度も出てきております、国立保健医療科学院のこのサイトを知っていたかというアンケートをとりましたところ、臨床試験・治験の専門家であっても、知らないという方が70%おりました。また、本サイトを知っていたという方を対象に利用頻度を伺ったところ、たまに使うという方が58%、使わないという方が35%おまして、よく使う、時々使うという方はほとんどいないという状況でした。

その理由としましては、検索しづらいというのが一番多く、臨床試験の専門家であっても、このような言葉が出てくるのが現状です。また、利用する機会がないということや、知りたい情報になかなかどり着けないということも、専門家の間からも言われました。

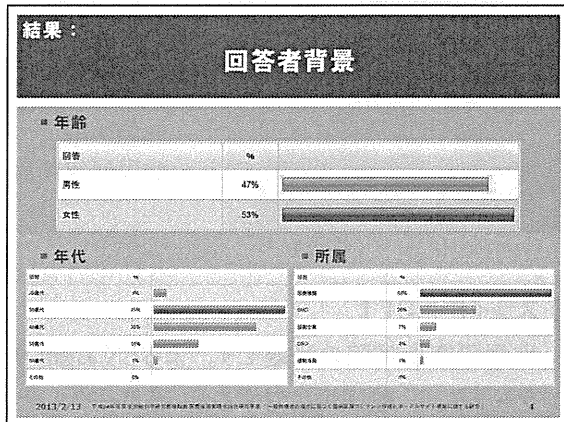
【スライド - 06】

また、海外で臨床試験のデータを取りまとめているClinicalTrials.govについて同じような質問をしてみました。このサイトを知っているかという質問では、知っていたという方が41%で、先ほどの国立保健医療科学院よりも多数が出ております。また、知っている方の中での利用頻度を見ましても、時々使うという方が23%おまして、やはり、使わない、たまにしか使わないという方のほうが多いのですけれども、先ほどのデータに比べて使う頻度が高いということがわかりました。ただし、なかなかこういったものというのは、最前線の情報というものを知ってはいても、最前線の臨床研究の情報を検索する機会というのは非常に少ないということもあまして、使わないと答えた方に関しては、やはり使用する目的がちよっとわからないというようなことが、知っていても使わないという方が非常に多いという印象でした。

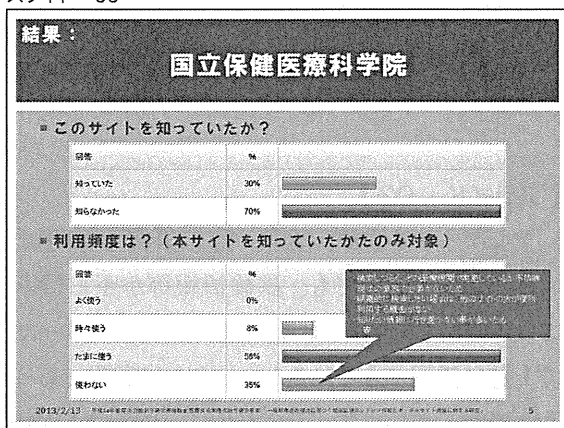
【スライド - 07】

また、WHOのICTRPというサイトに関しても、知らないという方が78%で、知っていた22%の方の中でも、ほとんど使う、たまに使う、使わないという方がやはり多いという結果になりました。こちらも、やはりClinicalTrials.govを使う機会がそもそも多いということと、あとは必要性を感じないという方が多いということでした。

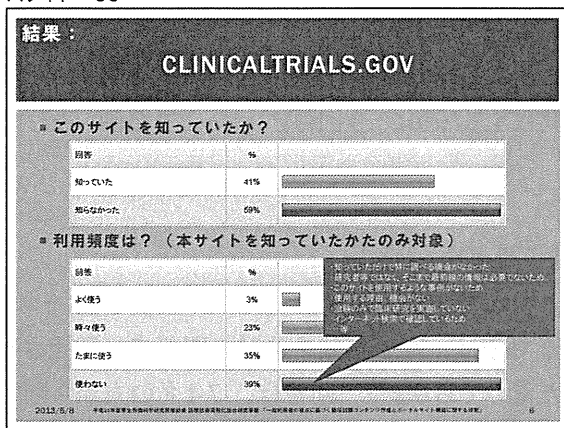
スライド - 04



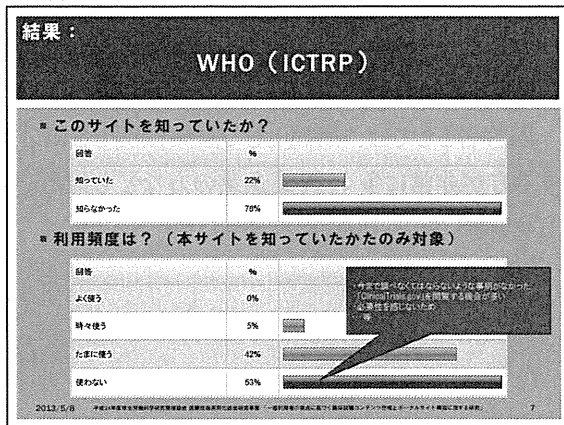
スライド - 05



スライド - 06



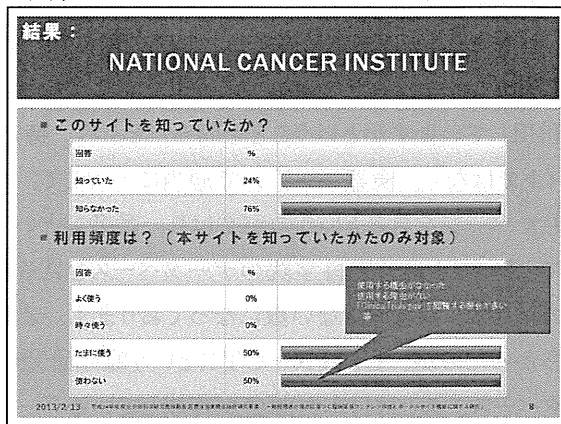
スライド - 07



【スライド - 08】

また、NATIONAL CANCER INSTITUTE に関しては、知らなかったという人が76%、知っていたという方が24%でした。知っていたという方の中でも、利用頻度を伺ったところ、たまに使う、使わないという方が多くて、あまり高頻度に利用はされていないという現状がわかりました。こちらやはり、使用する機会がそもそもないというようなコメントが多く挙げられました。

スライド - 08



【スライド - 09】

そこで、試験情報、治験の情報収集の方法に関して、どのような手段で専門家たちは臨床試験・治験の情報を収集していますかというアンケートをしたところ、インターネットによる検索が60%で一番高頻度でした。その他、書籍・専門雑誌等の検索、あとは該当診療科の医師に直接聞いてみる。病院関係者でしたら、薬剤部のDI室など医薬品情報室への問い合わせをしているという方が多く、やはりインターネットによる検索というのが、一番、情報収集方法としては高頻度だということがわかりました。

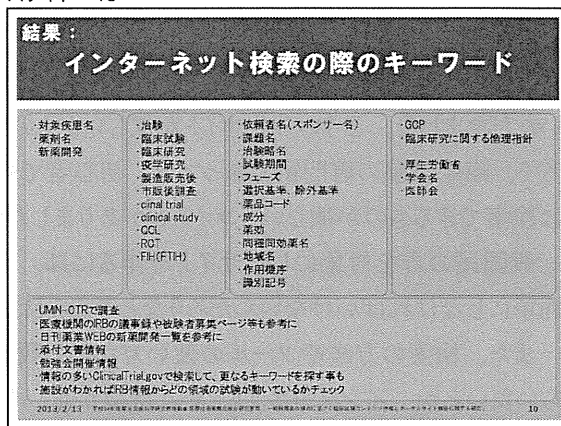
スライド - 09



【スライド - 10】

それではインターネット検索の際に、どのようなキーワードを入れて収集しますかということを知りたいところ、対象疾患名、薬剤名、新薬開発という言葉を入れたり、治験や臨床研究、疫学研究、製造販売後など、やはり専門家ならではの研究のカテゴリーといったものをきちんと入れて検索をかけると回答がありました。また、ある程度スポンサー名、依頼者名がわかっているならば、その依頼者名や、治験が第I相なのかII相なのかというようなフェーズ、あとは薬効や成分、薬品コードなど、やはり専門家ならではの検索ワードを入れてインターネット検索をかけると回答しております。また、GCPや、臨床研究に関する倫理指針、あとは学会名を入れてみるというような回答も多く挙げられました。

スライド - 10



こういうようなインターネットでの検索キーワードを使って、さらに添付文書の情報や勉強会の情報を集めたり、ClinicalTrials.govでさらに検索をしたり、あとは実施している治験の施設がわかれば、その施設の治験審査委員会の情報などをウェブから調べたりして、その開催議事録から、どういった試験が行われているのかというのを調べるという、専門家ならではのやり方というのが、こちらで浮かび上がってきました。

【スライド - 11】

インターネット検索に関して、では実際には、先ほどのようなキーワードを入力する際にどのようなサイトを利用してありますかということ伺ったところ、特定のサイトではなく、検索エンジンで適当に入力して、ヒットしたページを見るというのがやはり一番多いということで、国立保健医療科学院のデータベースを見るという方は4%、かなり少ない数になっております。2番目に多かったのが、UMIN-CTRという臨床研究のデータベース、あとは日本医師会が作成しているデータベースを見るという方が多く、特に特定のサイトを利用するわけではない、グーグルなどで適当に入れてみるんだという方が一番多いという結果になりました。

【スライド - 12】

では、試験情報を収集するのに役に立つと考えられるサイトはどういったものですかという質問をしたところ、一番多かったのは、臨床研究の情報を一元的に管理しているホームページ及びデータベース。もしそういったものがあれば、一番情報収集に役に立つのではないかというような回答が挙げられました。

【スライド - 13】

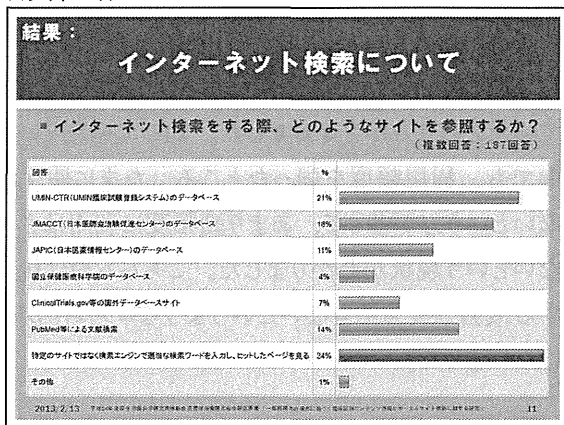
こちら一部抜粋ですが、さらに自由コメントを挙げていただきました。どういったサイトが欲しいかというところで、臨床試験の専門家であっても、初心者でも簡単に検索できるものが欲しいとコメントがありましたので、一般国民の方を対象にしたサイトを作るには、もっと簡単にしなければいけないだろうと考えられます。

また、検索の方法やツールの使い方などを教えてもらいたいとか、インターネットという特徴から、どれが正しい情報なのかがわかりにくいので、どれが正しい

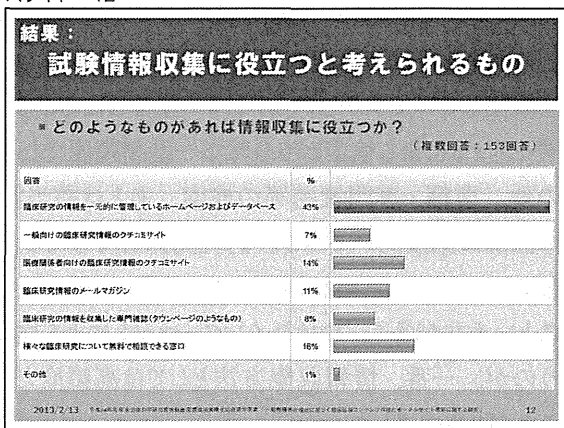
情報かきちんとわかるようにしてほしいという声もありました。あとは、こういったさまざまな情報があるのですけれども、日本の情報だけを一元管理する必要性というのあまり感じないというような意見もありました。

また、情報の網羅性ということで、網羅性が可能な限り高いようなコンテンツを作ってもらいたいということ。あとはやはり、先ほどの山崎の発表にもありましたが、疾患名から検索ができるような形式にないと使いにくいのではないかというようなコメントがありました。

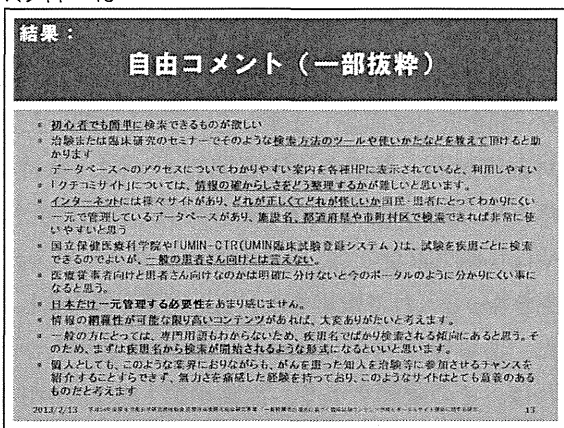
スライド - 11



スライド - 12



スライド - 13



【スライド - 14】

最後に考察とまとめですが、本調査では、臨床試験・治験の専門家であっても、国内外のデータベース、先ほど挙げた4つのデータベースについて、いずれも、知っていたとしてもあまり利用されていないことが示されました。また、そういった試験情報に関する収集であっても、特別なデータベースを使うよりも、検索エンジン、グーグルやヤフーなどで適当に検索ワードを入力して検索するという回答が一番多い。しかしやはりインターネットという情報というのは、正しい情報も間違った情報もありますので、専門家でもその利用には十分注意しなければならないということが考えられます。

また、そのような専門家の中であっても、きちんと管理された臨床研究の情報を一元的に管理しているホームページに対するニーズというのは強いことが示されて、本研究では、一般国民に対してのポータルサイトの作成ということが第一目標ですが、さらに臨床研究の専門家なども実際には使える、使いやすいようなサイトの構築もあわせて考えていければ、より使いやすいポータルサイトになるのではないかなということがわかりました。以上です。どうもありがとうございました。

スライド - 14

考 察

- 本調査では、臨床試験・治験の専門家であっても国内外のデータベース（国立保健医療科学院、Clinicaltrial.gov、WHO（ICTRPSP）およびNational Cancer Institute）について、いずれも知っていたとしても、あまり利用されていないことが示された。
- 試験情報の収集であっても、UMIN-CTRやJMACCTのデータベースよりも「検索エンジンで適当に検索ワードを入力する」という回答が多かった。しかし、インターネット情報は玉石混濁であるため、専門家でもその利用には十分に注意しなければならない。
- 臨床試験・治験の専門家の中でもきちんと管理された「臨床研究の情報を一元的に管理しているホームページ等へのニーズ」が高いことが示された。

2012/7/13 平成24年度第1回公開フォーラム「一般国民が望む臨床研究ポータルサイトとは？」 14

『一般利用者を対象とした臨床研究(治験)
ポータルサイトに対するニーズ調査』

株式会社 QLife (キューライフ)
代表取締役

山内 善行



【スライド - 01,02,03】

皆さん、こんにちは。QLifeという会社は、医療に関するいろいろな情報サイトを、患者さん向けと、それから医療者向け、両方で運用している会社です。ポータルサイト作りにそのあたりの知見を生かしてほしいと、有田先生からお声がけをいただいたという経緯です。

最近ではウェブサイトだけではなくて、アプリもたくさんやっています、添付文書を検索するだとか、そういうアプリもかなり人気です。あるいは、我々が直接やっているサイトではなくて他者サイトに記事やデータを提供している、つまりコンテンツ供給もしているものですから、既にどこかで皆さんと接点があるかもしれないです。今600万人、月々利用していただいているものですから、そういった方々にも協力をいただき臨床試験ポータルサイトに関するニーズ調査というのを行いました。

スライド - 01

QLife

平成24年度厚生労働科学研究費補助金医療技術実用化総合研究事業
「一般利用者の視点に基づく臨床試験コンテンツ作成と
ポータルサイト構築に関する研究」(研究代表者: 有田悦子)

一般利用者を対象とした
臨床研究(治験)ポータルサイトに対する
ニーズ調査

2013年2月10日

株式会社QLife(キューライフ)
代表取締役 山内善行

スライド - 02

QLife

1. 調査の実施概要

2. 日頃の情報接触・活用の状況

3. 臨床試験・治験の知識の状況

4. 臨床試験・治験に関する情報の探し方

5. 臨床試験・治験を説明する動画のあり方

6. 臨床試験・治験の情報サイトで知りたい内容

Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved

スライド - 03

QLife

【調査の実施概要】

●目的:
一般国民にとっての
臨床研究・治験の情報検索ポータルサイトの
あるべき姿を探る。

「臨床試験に関する情報ニーズ」
「臨床試験・治験情報サイトに対して求めるもの」
の実態を把握する。

●方法:
インターネット調査(2012年12月)

Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved

【スライド - 04】

インターネット調査で行ったのですが、今回の対象は成人のインターネット利用者のうち「臨床試験に関する情報に今まで接したことがある」という自覚を持っている人。これが大体、日本のインターネット利用者の4分の1に該当する。そんな属性です。

スライド - 04

QLife

【調査の実施概要】

●対象:
「20歳以上のインターネット利用者」
のうち、
「臨床試験に関する具体的情報(実施の告知、
被験者募集、苦情、エピソード記事など)を
目にした経験がある人」

▼日本の成人インターネット利用者の
約1/4が該当する属性(第一次調査より)

▼一般の人が分かるよう調査画面上で
以下の説明文を掲載

臨床試験とは、「新しい治療法などの有効性や安全性
を調べるために、人間を対象として行われる試験研究」
です。
この臨床試験のうち、「新薬の開発を目的として行われ
るもの」を「治験(ちげん)」と言います。

Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved

【スライド - 05】

数は500人です。1次調査と同じように、日本のインターネット利用者全体と、性別・年代別の構成を同じにして、なるべく代表性が高いうように回収しました。

【スライド - 06】

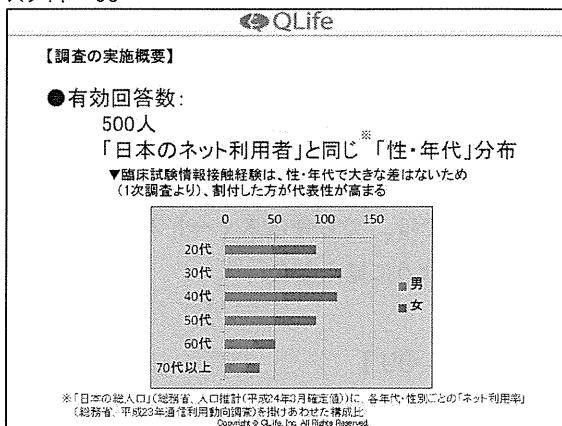
このスライドから、その結果の報告に入ります。まず1つ目が、「日ごろの情報接触・活用の状況」です。「日ごろの」というのは、特に医療情報に限らないで、ニュースであるとか、あるいはゲームとかお笑いだとか、いろいろなものも含めての一般的な情報接触を意味します。これをインターネット経由でするときに、どんな方法でやっていますかという、そんな質問です。

【スライド - 07】

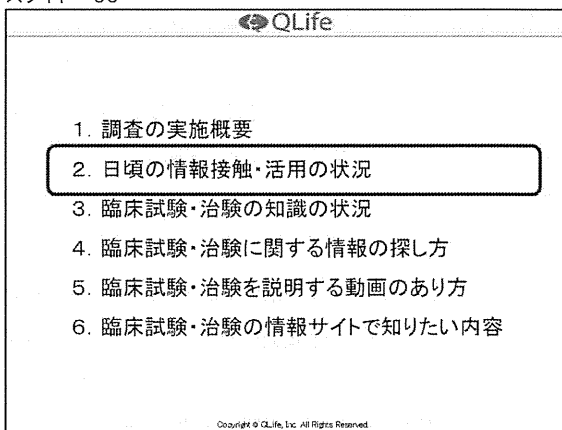
どんな端末、つまりどこを経由してインターネットを利用しているかをまず最初に確認したところ、自宅でのパソコンがほとんどです。一方気になっていたのがスマートフォン。これは最近ものすごい勢いで台頭してきていますので、スマートフォンはどれぐらい使われているのだろうかということも確認したところ、先に結論で言うと、それほどでもない。そんなに重視をしなくてもよからうというのが結論です。スマートフォン経由でインターネットを使っている人は今3割です。それから、その3割の人は、ほとんどがパソコンも使っていて、パソコンとスマートフォン、両方使っている。しかも、どちらの時間のほうが大きいですかということも質問したところ、「スマートフォンのほうが時間が長い」という人は2割に過ぎない。つまりほとんどの人が、パソコンのほうがまだまだ時間は長いということです。なので「使用率」、細かく言うと「所有率」及び「それを使っている時間、どれぐらい依存しているのか」ということで見る限り、まだまだ自宅のパソコンをきちんと押さえていくことで十分だろうと。それが結論です。

それが結論なのですが、気になるのが、ここです。20代と40代以降とで、使用率にかなり差があります。全体では比率が低くとも、年代、年齢によって、スマートフォンというのは一大現象になっている感じです。20代、30代の若者。若者といっても、ティーンエイジャーではないです。20代の人だけに聞くと、「パソコンよりもスマートフォンのほうが、今はもう日ごろ使っている時間が長いです」という割合がぐっと一気に広がっています。だから、年代によって断層ができていそうな雰囲気があります。なので、先ほどの結論の通り今だったらあまりスマートフォンを気にしなくてもよさそうですけれども、あと3年後、5年後を考えると、スマートフォン対策もきちっとやらないといけないかもしれないです。

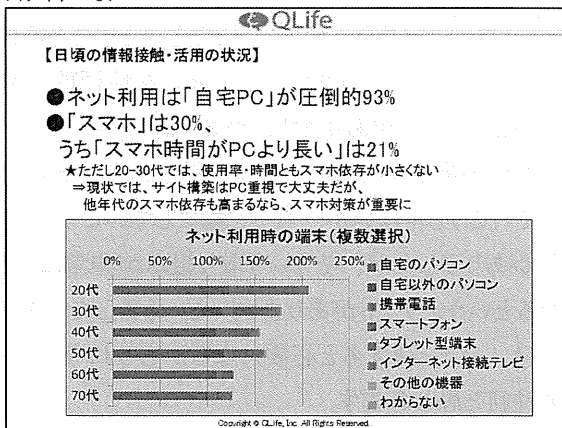
スライド - 05



スライド - 06



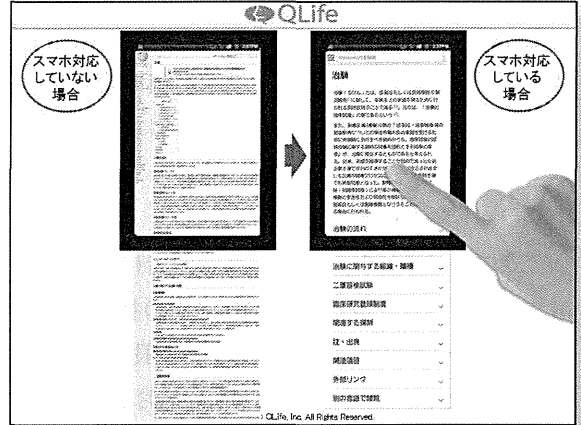
スライド - 07



【スライド - 08】

スマートフォン対策とはどういうことかという、簡単に言うと、ウィキペディアというサイトで「治験」というページを見てみると、スマートフォン対応をしていないと、左側のように見えます。昔はこうだったんです、しばらく前までは。でも今はスマートフォン対応されたので、右側のように見えます。

スライド - 08

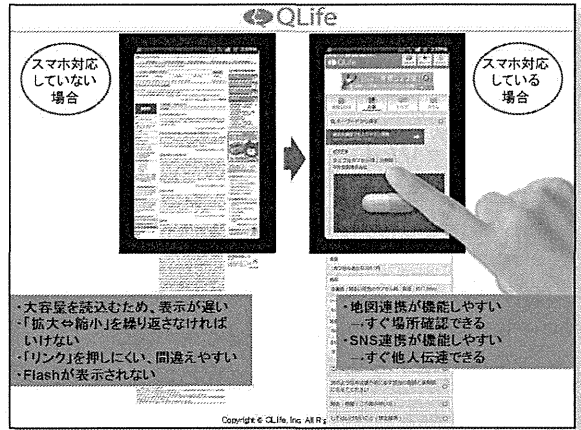


【スライド - 09】

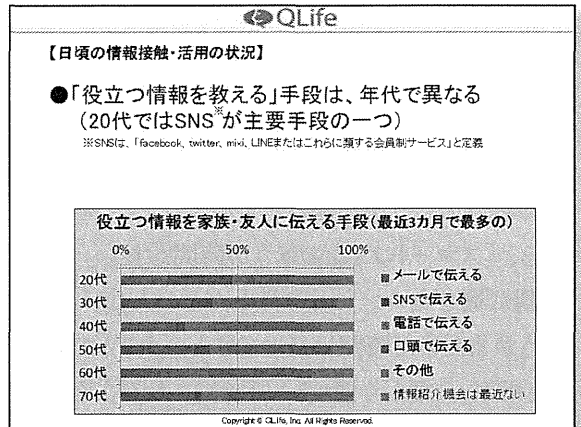
それから、これが製薬会社の一般向け公式説明書「くすりのしおり」をまとめて見れる弊社サイトです。これも以前はスマホ対応していなかったで左側のように見えていたのが、今は右側のように見えるという状況です。

何が違いか。見た目で大分違うなどというのはわかりになると思うのですが、大きな容量をブラウザに読み込まなければいけないために表示が遅くなる点だとか、拡大したり縮小したりの操作をいちいち繰り返すことが必要になるためちょっと面倒くさいだとか。あるいは表示が小さいので操作を間違いやすいということもあります。あとは、きちっとスマホ対応にしますと、スマホらしく地図と連携できたり電話と連携できたり、あるいはSNS、これはこの後出てきますけれども、ソーシャルネットワーキングサービスといったものとすごく親和性がよいようにできていますので、それを積極的に使いやすいということがあります。つまり情報が、先ほどのどなたかの発表の中で、一方通行でなくもっと双方向にしていこうじゃないか、もっと輪にしていこうよというお話がありましたが、そういう取り組みが非常にしやすくなるというメリットがあります。ということで、スマホ対応は、ひよっとすると必要になるかもしれない。今後、要注目と思われます。

スライド - 09



スライド - 10



【スライド - 10】

今お話に出たソーシャルネットワーキングサービスに関する設問です。具体的にはフェイスブックだとか、あと最近話題になっているLINEというのがありますが、こういった会員制のサービスです。これを皆さんどれぐらい使っているのかというものの調査なのですが、単なる加入率ならば既に世の中にいろいろなデータがありますので、今回は「役に立つ情報」に限定して利用状況を確認しました。あの人はこういうことで困っていたな。その人に役立つような情報をばつと見つけたときに、あなたはどのような方法でそのことを、あなたの家族だとか友人に教えてあげますか」という質問です。つまり、あなたはこの病気になっていますよね、困っていますよね、ちょうど私はこういう治験情報を見つけたから教えてあげる。こういうシチュエーションをイメージしているわけですが、役立つ情報を見つけたときに、どんな方法で友達あるいは家族に伝えるかという、やはり圧倒的に大きいのは口頭で伝えるという方法です。

ただし注目なのは、ここでも先ほどと同じく世代間断層ができていて、20代は、もちろんやっぱり口頭。顔見知り、よく顔を合わせる人たちですので、やっぱり口頭で伝えるというのが一番大きいのですが、2番目がSNSでした。メールだとか、ましてや電話で伝えるなんていうことは、あまりなく、ソーシャルネットワークで伝えるということが多い。

【スライド - 11】

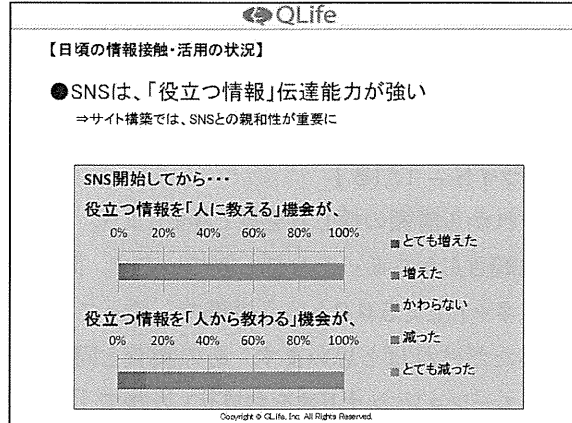
では実際にSNSを使い始めてから、人に教える、あるいは教わるという機会が増えましたかと訊くと、どちらもかなり増えたという人が圧倒的で、減ったという人はほとんどいません。つまり、ソーシャルネットワーキング、SNSというものはかなり、人に教えてあげたりだとか、あるいは人から教わったりだとかという動きを活発にする可能性がある。もちろん、そういったのが好きな人が、世の中に先行して加入しているという可能性もありますので、どっちが鳥と卵かわかりませんが、少なくとも結構な数の人たちが、SNSを開始してから「役立つ情報」授受行動が増えたと言っておられます。

【スライド - 12,13,14,15,16】

ここから臨床試験・治験に関する知識についての話です。臨床試験・治験について、どんなことをあなたは知っていますかということを知り、自由記述をしていただきました。代表的なコメントをお手元の資料に入れてあります。ちょっと乱暴に言うと、文字数少ない人のコメントには、前の発表で何度か出たアルバイト的な言葉が非常に多いですね。文字数が少ない人と多い人との違いは何かというと、知識の量や、伝えたいという意欲の高さと関連がある可能性があります。ということで、ほぼ全ての人たちが、治験と聞くとお金に関することが気になったり知っていたりするのだろうと推測できます。そして文字数が増えるに従って、他のいろいろな要素がコメント文章にも入ってきます。

注目は、ここです。「怖い」。文字数が多くなるに従って、「怖い」関連の言葉をコメントに入れる人が増加します。「怖い」「不安」の量が、治験に関する知識量あるいは知識伝達意欲のバロメーターとして使える可能性があるなと思います。人は、大きなものを買ったり、大きなことに挑戦するときは大体不安を覚えます。生まれて

スライド - 11



スライド - 12

-
1. 調査の実施概要
2. 日頃の情報接触・活用の状況
3. 臨床試験・治験の知識の状況
4. 臨床試験・治験に関する情報の探し方
5. 臨床試験・治験を説明する動画のあり方
6. 臨床試験・治験の情報サイトで知りたい内容
- Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

スライド - 13

-
- 【臨床試験・治験の知識の状況】
- 「知っていること」を自由記述した内容は、文字数による傾向差あり
(文字数多い=「知識が多い、または表現・伝達意欲ある」?)
- ・文字数多い人・・・「実施意義」「プラセボ」「比較試験」「スクリーニング」
 - ・文字数少ない人・・・「怖い」が増える
 - ・さらに文字数少ないと・・・「報酬」「高収入」が増える
- Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

スライド - 14

【臨床試験・治験の知識の状況】

文字数上位の記述

自由記述	年齢	性別	職業	未婚既婚	家族構成	治療経験
臨床試験・治験は、医療研究で新薬や治療法を開発するために必要で、患者さんには負担がかかるものですが、新薬が開発できれば、多くの人に役立つ治療薬が生まれ、医療の進歩につながります。また、臨床試験には、厳格な倫理審査が行われ、参加者の安全が最優先で確保されています。参加者は、医師や研究員から十分な説明を受け、自らの意思で参加することになります。また、参加者は、試験期間中は、医師や研究員から適切なケアを受け、体調不良や副作用が起きた場合は、すぐに中止することができます。臨床試験には、様々な種類があり、新薬の開発だけでなく、既存薬の効果を再評価するための試験も行われます。また、臨床試験には、患者さんにとっての負担を軽減するための工夫が行われ、例えば、在宅での試験や、オンラインでの試験なども行われています。臨床試験には、多くのメリットがあります。例えば、最先端の治療法を試すことができます。また、臨床試験には、医師や研究員から十分なケアを受け、体調不良や副作用が起きた場合は、すぐに中止することができます。臨床試験には、様々な種類があり、新薬の開発だけでなく、既存薬の効果を再評価するための試験も行われます。また、臨床試験には、患者さんにとっての負担を軽減するための工夫が行われ、例えば、在宅での試験や、オンラインでの試験なども行われています。臨床試験には、多くのメリットがあります。例えば、最先端の治療法を試すことができます。	73歳	女性	無職			本人が経験
臨床試験・治験は、医療研究で新薬や治療法を開発するために必要で、患者さんには負担がかかるものですが、新薬が開発できれば、多くの人に役立つ治療薬が生まれ、医療の進歩につながります。また、臨床試験には、厳格な倫理審査が行われ、参加者の安全が最優先で確保されています。参加者は、医師や研究員から十分な説明を受け、自らの意思で参加することになります。また、参加者は、試験期間中は、医師や研究員から適切なケアを受け、体調不良や副作用が起きた場合は、すぐに中止することができます。臨床試験には、様々な種類があり、新薬の開発だけでなく、既存薬の効果を再評価するための試験も行われます。また、臨床試験には、患者さんにとっての負担を軽減するための工夫が行われ、例えば、在宅での試験や、オンラインでの試験なども行われています。臨床試験には、多くのメリットがあります。例えば、最先端の治療法を試すことができます。	43歳	女性	パート・アルバイト			
臨床試験・治験は、医療研究で新薬や治療法を開発するために必要で、患者さんには負担がかかるものですが、新薬が開発できれば、多くの人に役立つ治療薬が生まれ、医療の進歩につながります。また、臨床試験には、厳格な倫理審査が行われ、参加者の安全が最優先で確保されています。参加者は、医師や研究員から十分な説明を受け、自らの意思で参加することになります。また、参加者は、試験期間中は、医師や研究員から適切なケアを受け、体調不良や副作用が起きた場合は、すぐに中止することができます。臨床試験には、様々な種類があり、新薬の開発だけでなく、既存薬の効果を再評価するための試験も行われます。また、臨床試験には、患者さんにとっての負担を軽減するための工夫が行われ、例えば、在宅での試験や、オンラインでの試験なども行われています。臨床試験には、多くのメリットがあります。例えば、最先端の治療法を試すことができます。	50歳	男性	無職			親子体験
臨床試験・治験は、医療研究で新薬や治療法を開発するために必要で、患者さんには負担がかかるものですが、新薬が開発できれば、多くの人に役立つ治療薬が生まれ、医療の進歩につながります。また、臨床試験には、厳格な倫理審査が行われ、参加者の安全が最優先で確保されています。参加者は、医師や研究員から十分な説明を受け、自らの意思で参加することになります。また、参加者は、試験期間中は、医師や研究員から適切なケアを受け、体調不良や副作用が起きた場合は、すぐに中止することができます。臨床試験には、様々な種類があり、新薬の開発だけでなく、既存薬の効果を再評価するための試験も行われます。また、臨床試験には、患者さんにとっての負担を軽減するための工夫が行われ、例えば、在宅での試験や、オンラインでの試験なども行われています。臨床試験には、多くのメリットがあります。例えば、最先端の治療法を試すことができます。	49歳	女性	パート・アルバイト			治療薬 処方
臨床試験・治験は、医療研究で新薬や治療法を開発するために必要で、患者さんには負担がかかるものですが、新薬が開発できれば、多くの人に役立つ治療薬が生まれ、医療の進歩につながります。また、臨床試験には、厳格な倫理審査が行われ、参加者の安全が最優先で確保されています。参加者は、医師や研究員から十分な説明を受け、自らの意思で参加することになります。また、参加者は、試験期間中は、医師や研究員から適切なケアを受け、体調不良や副作用が起きた場合は、すぐに中止することができます。臨床試験には、様々な種類があり、新薬の開発だけでなく、既存薬の効果を再評価するための試験も行われます。また、臨床試験には、患者さんにとっての負担を軽減するための工夫が行われ、例えば、在宅での試験や、オンラインでの試験なども行われています。臨床試験には、多くのメリットがあります。例えば、最先端の治療法を試すことができます。	39歳	女性	会社員			
臨床試験・治験は、医療研究で新薬や治療法を開発するために必要で、患者さんには負担がかかるものですが、新薬が開発できれば、多くの人に役立つ治療薬が生まれ、医療の進歩につながります。また、臨床試験には、厳格な倫理審査が行われ、参加者の安全が最優先で確保されています。参加者は、医師や研究員から十分な説明を受け、自らの意思で参加することになります。また、参加者は、試験期間中は、医師や研究員から適切なケアを受け、体調不良や副作用が起きた場合は、すぐに中止することができます。臨床試験には、様々な種類があり、新薬の開発だけでなく、既存薬の効果を再評価するための試験も行われます。また、臨床試験には、患者さんにとっての負担を軽減するための工夫が行われ、例えば、在宅での試験や、オンラインでの試験なども行われています。臨床試験には、多くのメリットがあります。例えば、最先端の治療法を試すことができます。	55歳	女性	会社員	社か人、帝王切開	旦那、3人	本人が経験
臨床試験・治験は、医療研究で新薬や治療法を開発するために必要で、患者さんには負担がかかるものですが、新薬が開発できれば、多くの人に役立つ治療薬が生まれ、医療の進歩につながります。また、臨床試験には、厳格な倫理審査が行われ、参加者の安全が最優先で確保されています。参加者は、医師や研究員から十分な説明を受け、自らの意思で参加することになります。また、参加者は、試験期間中は、医師や研究員から適切なケアを受け、体調不良や副作用が起きた場合は、すぐに中止することができます。臨床試験には、様々な種類があり、新薬の開発だけでなく、既存薬の効果を再評価するための試験も行われます。また、臨床試験には、患者さんにとっての負担を軽減するための工夫が行われ、例えば、在宅での試験や、オンラインでの試験なども行われています。臨床試験には、多くのメリットがあります。例えば、最先端の治療法を試すことができます。	39歳	女性	専業主婦			
臨床試験・治験は、医療研究で新薬や治療法を開発するために必要で、患者さんには負担がかかるものですが、新薬が開発できれば、多くの人に役立つ治療薬が生まれ、医療の進歩につながります。また、臨床試験には、厳格な倫理審査が行われ、参加者の安全が最優先で確保されています。参加者は、医師や研究員から十分な説明を受け、自らの意思で参加することになります。また、参加者は、試験期間中は、医師や研究員から適切なケアを受け、体調不良や副作用が起きた場合は、すぐに中止することができます。臨床試験には、様々な種類があり、新薬の開発だけでなく、既存薬の効果を再評価するための試験も行われます。また、臨床試験には、患者さんにとっての負担を軽減するための工夫が行われ、例えば、在宅での試験や、オンラインでの試験なども行われています。臨床試験には、多くのメリットがあります。例えば、最先端の治療法を試すことができます。	32歳	女性	公務員			
臨床試験・治験は、医療研究で新薬や治療法を開発するために必要で、患者さんには負担がかかるものですが、新薬が開発できれば、多くの人に役立つ治療薬が生まれ、医療の進歩につながります。また、臨床試験には、厳格な倫理審査が行われ、参加者の安全が最優先で確保されています。参加者は、医師や研究員から十分な説明を受け、自らの意思で参加することになります。また、参加者は、試験期間中は、医師や研究員から適切なケアを受け、体調不良や副作用が起きた場合は、すぐに中止することができます。臨床試験には、様々な種類があり、新薬の開発だけでなく、既存薬の効果を再評価するための試験も行われます。また、臨床試験には、患者さんにとっての負担を軽減するための工夫が行われ、例えば、在宅での試験や、オンラインでの試験なども行われています。臨床試験には、多くのメリットがあります。例えば、最先端の治療法を試すことができます。	31歳	男性	会社員			親子体験
臨床試験・治験は、医療研究で新薬や治療法を開発するために必要で、患者さんには負担がかかるものですが、新薬が開発できれば、多くの人に役立つ治療薬が生まれ、医療の進歩につながります。また、臨床試験には、厳格な倫理審査が行われ、参加者の安全が最優先で確保されています。参加者は、医師や研究員から十分な説明を受け、自らの意思で参加することになります。また、参加者は、試験期間中は、医師や研究員から適切なケアを受け、体調不良や副作用が起きた場合は、すぐに中止することができます。臨床試験には、様々な種類があり、新薬の開発だけでなく、既存薬の効果を再評価するための試験も行われます。また、臨床試験には、患者さんにとっての負担を軽減するための工夫が行われ、例えば、在宅での試験や、オンラインでの試験なども行われています。臨床試験には、多くのメリットがあります。例えば、最先端の治療法を試すことができます。	72歳	男性	その他			治療薬 処方

Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.